



NME News

Nutritional Management Expert News

栄養経営士のための情報紙

2021
12月号

●発行/一般社団法人
日本栄養経営実践協会
(JANMP)
〒104-0032
東京都中央区八丁堀3-20-5
S-GATE八丁堀9階
●制作/株式会社日本医療企画

お問い合わせ先/一般社団法人 日本栄養経営実践協会 事務局 TEL.03-3553-2903 FAX.03-3553-2904 <http://nutrition-management.jp>

日本栄養経営実践協会 東北支部研究会

栄養部門のリーダーを志す仲間よ来たれ!

栄養経営士の役割を自覚して 変革を導くリーダーを目指そう!

栄養経営士の役割のひとつに、部門のリーダーとして現状改善に向け変革を進めることが挙げられます。では、部門における「リーダー」とはどのような存在なのでしょう。2月から3回にわたり開催する東北支部研究会「講義とグループワークで学ぶ栄養部門のリーダーになるためのファーストステップ」で講師を務める、本協会の秋山和宏副代表理事にお話を伺いました。

仙台大会での実践報告から見えてきた 栄養経営士のリーダーとしての役割

昨年の「第6回全国栄養経営士のつどい仙台大会」では、栄養経営士の実践報告をオンラインで拝見していただきました。そのときの総評として申し上げたのが、演者の方々はマネージャーの枠を超えて、すでにリーダーとして活躍されているということでした。自らが部門運営や業務について問題意識を持って、率先して動き、課題を解決して成功事例を産み出している、非常に参考になる内容であったと思います。

職場を良くしていきたい、変えていきたいという志に火を付ける場をつくるのができればと思います。全3回の研究会として開催することになりました。

「誰か」になるということなのです。「あの人が言うなら、そうしようか」と思わせる存在になるためには、毎日の積み重ねが大切です。栄養経営士の皆さまには、ぜひその意識を持って、リーダーを目指していただきたいと思っています。



秋山和宏副代表理事

困難に立ち向かう気概を持ち 現場を変えるために動ける人材に

この研究会では、現場を変えていける、本当に動ける人材になるために必要な考え方を学んでいただきたいと思っています。

現状を批判すること、誰でもできます。しかし、実際に変革するとなると大変です。そもそも、そんな簡単に変わってしまう組織

というのは危ういと考えることもできません。しょう。だからこそ、変えることのできる人材は貴重なのです。

例えば、給食の委託会社を変える、直営から全面委託に変える、といった大きな変革を起こそうというときに、数字を並べて「こうすればこうなりま

す」と正解を言ってしまうと、得しようとしても、なかなか話を聞いてもらえないかもしれません。じつは、本当に大切なのは「何を言うのか」ではなく、「誰が言うのか」であり、リーダーになるとは、その「誰か」になるということなのです。「あの人が言うなら、そうしようか」と思わせる存在になるためには、毎日の積み重ねが大切です。栄養経営士の皆さまには、ぜひその意識を持って、リーダーを目指していただきたいと思っています。

研究会に参加する同僚の思いを持った仲間・同志との出会いも、きっと大きな財産になるはずです。そんなリーダーになるための一歩を、ここで踏み出していただければ幸いです。

日本栄養経営実践協会 東北支部研究会

講義とグループワークで学ぶ 栄養部門のリーダーになるためのファーストステップ

第1夜★マネジャーへの道

求められる人材と活躍する人材/MBO(目標による管理)とKPI(重要業績評価指標)

第2夜★マネジャー以上リーダー未満

イシュー・ドリブン(課題をもとにした意思決定)/MECE(ミーシー:モレなく、ダブリなく)

第3夜★リーダーたれ

グループワーク:マネジャーとリーダーの違い/シェア・タイム/まとめ(仕事の報酬観)

※3回とも質疑応答を行い、参加者の疑問・悩みを共有し、一緒に解決方法を考えていきます

講師

秋山和宏先生 (医療法人財団 松園会 東葛クリニックみらい院長 / 一般社団法人日本栄養経営実践協会 副代表理事)



日時: 2月4日、2月18日、3月4日

※各回(金) 19:30~20:30

開催形式: WEB (Zoomミーティング)

参加費(税込): 会員/全3回: 5,000円 各回: 2,000円

一般/全3回: 6,000円 各回: 2,500円

申込み方法: QRコードよりお申し込みください



お問い合わせ: 日本栄養経営実践協会東北支部(日本医療企画東北支社) 担当: 三浦 TEL 022-281-8536

支部NEWS

東海支部

【東海支部】セミナーレポート

管理栄養士と調理師の連携 給食管理の仕組みづくりのポイントを解説!

支部研究会「管理栄養士業務改革セミナー【給食管理編】」会場+WEB開催

11月13日(土)に日本医療企画中部支社と株式会社ナリコマエンタープライズ共催、日本栄養経営実践協会東海支部後援で「管理栄養士業務改革セミナー【給食管理編】」をオンラインと会場のハイブリット形式で開催しました。講師はJA愛知厚生連豊田厚生病院栄養管理室栄養管理第1課長の森茂雄氏と給食管理係長の岩本拓郎氏が務め、給食管理の仕組み作りをテーマに講演。全国各地から栄養経営士、管理栄養士、栄養学生等が約100名参加しました。

具体的な課題抽出から
解決策を見つけて仕組みづくりを行う

栄養管理と給食管理という栄養部門にとっての両輪をうまく回すには、給食管理業務を見直し、土台となる給食業務の仕組みづくりが重要となります。今回は、病床数600床の直営病院 JA愛知厚生連豊田厚生病院の事例から「管理栄養士と調理師の連携 給食管理の仕組みづくりのポイント」をテーマに、管理栄養士の森茂雄氏と調理師の岩本拓郎氏が講演しました。

はじめに調理師の岩本氏より、管理栄養士と調理師の歩幅合わせの重要性について、実際に病院で起きた失敗談から改善までの流れを

もとに説明。管理栄養士と調理師の連携のためには、「①栄養管理室全体の目標を明確化すること」「②報告・連絡・相談」の2つを徹底することが重要であると述べました。その結果、調理師と管理栄養士の関係性が改善し、患者さんを中心とした会話や感謝の言葉が増え、目に見える数値で業務改善につながったと話しました。

続いて、管理栄養士の森氏より「仕組みづくりの3ステップ」について、同院の事例をもとに講演。仕組みづくりの準備として、まずは現状把握をすることから、そして仕組みづくりの3本柱「①インシデントレポート」「②目標課題設定」「③タスク管理」を実践し、これらを評価・分析し、繰り返し行っていくことが重要だと解説しました。また、業務の標準は新人に合わせることを、なるべくがんばらない仕組みをつくっていくことが大切だと訴えました。

その後、共催企業である株式会社ナリコマエンタープライズ営業統括本部担当課長メディカルセールスディレクターの春野史彰氏より特別講演として「病院給食を取り巻く環境とクックチルを使用した厨房運営改革」のお話がありました。実際に導入実績のある病院の事例をもとに、病院向けクックチル献立「やすらぎ」の導入効果として、「①栄養価の安定による献

立展開業務の効率化」「②付加食材(補助食品)減少による更なるコスト削減」「③特別治療食の患者満足の上昇」につながったことを紹介し、すべての講演が終了しました。

セミナー後の参加者からは、「給食管理において、仕組み作りがいかに重要かを実感した」「実際の現場での課題や解決策を知ることができた」「自身の職場でも実践してみようと思った」など皆さんから前向きな感想をいただき、大変有意義なセミナーとなりました。

東海支部では、今後も管理栄養士・栄養経営士の視点を重視したスキルアップ勉強会を開催していきます。新型コロナウイルス感染症の状況に合わせて、会場参加も受け付けておりますので、ぜひ会場にも足をお運びください。



会場で講師の話に熱心に聞く参加者たち

★新会員サービス「オンラインサロン」大好評開催中!

目標となるモデルを見つけ「なりたい自分」を描いてみよう

本協会の栄養経営士・栄養経営サポーターのみが無料で参加できる「オンラインサロン」。第12回は12月20日(月)18:30より行われました。協会からは吉田貞夫理事、真壁昇理事が参加したほか、支部の理事も出席し、参加者から寄せられた質問や悩みに対しみんなで語り合いました。

この日は、キャリアデザインについての相談からはじまりました。北海道支部の田中智美理事は「キャリアデザインを考えるよう部署のスタッフには言っているし、取り組みは始める病院も増えてきたように思う。私の場合は栄養士として必要とされたいというのが中心にあって、たとえ計画通りにいなくても、「こういう人でありたい」という理想を大事にしている。ただ、最近理想のイメージすらないスタッフが増えた。そのため、部署として望むスタッフ像を伝え、どうなりたいかを確認し、病院の大きな理念のなかでやりたいことに近づくキャリア支援を心がけている」と自院での対応を紹介しました。

本協会サイト「栄養経営士活動報告」で活動を紹介している海老名総合病院の齊藤大蔵さんは「自分が病院に入職したとき、ちょうど5年、10年、20年先の目標になる先輩たちがいて、その人たちの後を辿ってキャリアを重ねて

きた。近くにいなければ、後輩や部下が目標にできる人たちに会う機会をつくってはどうか。学会に連れていく、勉強会を企画するなどして、自分で機会をつくるのも手」と自身のキャリアを振り返って提案しました。

真壁理事からは「自分には最初から、臨床栄養をやるという夢があった。給食管理が主だった時代にやっと病棟にいけるようになり、それから宮澤代表理事と出会ってアメリカに行き、日本とのギャップにショックを受けた。海外は無理でも、今とは違う環境に一度身を置いてみれば、見えてくるものがあるのではないか。また、20代で秋山副代表理事に出会い、意識は現実に先行すると教わった。『こうなったらいいのに』という希望は、正しければ実際にそうなる。迷ったときはいろいろな先生方に話を聞いてみては」という実体験に基づくお話がありました。

一人職場でモデルとなる先輩や上司がいない、近くに相談できる仲間がいない、という会員も多いかもしれません。そんなときはぜひ、オンラインサロンで経験豊富な理事の先生方や全国の仲間に相談してください。きっと何か新しいヒントや手掛かりが得られるはずです。

「オンラインサロン」は今後も月に1回のペースで実施する予定です。全国の栄養経営士や理事の先生方と直接交流できる、会員な

らではの貴重な機会ですので、ぜひ奮ってご参加ください。

▼12月20日(月)の話題

- ・今後のキャリアデザインの計画はどうやって立ててる?
- ・病院機能評価で何を聞かれるのか、受審について知ってる人がいたら教えて
- ・高齢者にとって栄養補助食品の食べやすい味をどうやって知ればいいのか?
- ・外来栄養指導の算定要件「食事計画案」はどんな書類名にしてる? 運用方法は?
- ・調理員の常時必要人数をどうやって割り出してる? 計算式などはある?
- ・入退院時のサマリーは栄養治療実施計画兼栄養治療実施報告書(別紙様式5)を使ってる?

■栄養経営士 オンラインサロン

- ◇開催日時:2月28日(月)、3月29日(火)18:30~
- ◇参加対象:栄養経営士・栄養経営サポーター
- ◇受講料:無料
- ◇開催形式:オンライン配信(Zoom)

※お互いの顔を見ながら会話をするので、カメラ・マイク機能が使えないパソコン・タブレット等をご用意ください

※個別の症例の相談にはお答えできません

栄養経営士 ×

医療経営士

経営のWライセンス保持者に聞く!



経営に強い管理栄養士として 自分の武器を磨いていきたい



利尻島国保中央病院
診療部栄養科
中家 瞳さん

栄養経営士のなかにはマネジメントや経営分野をさらに学びたいと医療経営士の資格にチャレンジされる方もいます。昨年10月の試験で見事、医療経営士3級を取得された利尻島国保中央病院診療部栄養科の中家瞳さんに、取得されたねらいや今後の目標について伺いました。

法律や診療報酬への理解が深まり何をすべきかが明確になった

現在の病院に入職して1年半になりますが、入職当初の最大の目的は、「給食運営を立て直す」というプロジェクトを完遂することでした。プロジェクトを進めるにあたり、院内の関係構築に苦勞し、計画通りに進まないことも多々ありました。そのなかで、事務部門との連携が大変重要であると実感しました。物事を進める際にどのような流れで話を進め、決定するのか身をもって体験したときに、組織全体の仕組みや流れを把握していれば、よりスムーズでスピーディーに話を進められたのではないかという思いが芽生えました。さらに、法律や制度等も理解していれば、関係部門への最適な提案がで

きたのではないかと思います、病院経営を体系的に学べる医療経営士の受験を決めました。

医療経営士の勉強は大変やりがいがあり、これまで漠然と捉えていたことが構造的に理解できたことで、医療全体に関する法律や制度、医師や看護師、コメディカルの動きが見えてきました。特に、診療報酬についてより深く理解できたことは、私にとって大変意味のあるものでした。給食部門を運営する上で「点数を取得する」こと自体は、主な目的ではありません。しかし、施設基準を理解し、点数を確実に取得することは事務側に対する説得材料にもなりますし、院内の関係性を構築する上では有用でした。自部署で何をしたら点数を取得できるのかといった、病院の改革や未来について意識が持てるようになったのも、医療経営を学んだおかげだと感じております。

自分自身の強みを活かすために 介護福祉経営士の取得も視野に

入職してから直面した「栄養科を今後どのように立て直していくのか」という課題について、①給食管理を効率的に運営する②臨床栄養管理の体制を整える③地域連携の強化を図るという3つのステップを作り、段階的に進める計画を立てました。給食業務を一部委託化したことにより最初のステップは完遂し、現在は2つ

目のステップである臨床栄養管理の体制整備に取り組んでいます。

とくに栄養指導については、患者様の検査結果の数値が改善されたことが多く見受けられ、医師や患者様から信頼を得ることができたと実感しております。そのため、医師の協力もあり栄養指導件数が毎月増加していることはとてもありがたく思っております。これからも信頼を積み重ねて、臨床現場へ介入できる環境を整えていきたいと考えています。

3つ目のステップの地域連携の強化については、当院の置かれている環境はコンパクトな地域であるがゆえ、皆が顔を知っているような関係性があります。そのため、それを活かした仕組みづくりを構築したいと考えています。それには医療経営士で得た知識を具現化できるよう、さらなるレベルアップが必要だと考えており、次は医療経営士2級取得を目指します。また、あわせて介護福祉経営士にも挑戦する予定です。

最後に、私は臨床に関して十分な経験がなく、それがコンプレックスでもありました。しかし、現在置かれている環境や経験から「経営」という武器を手に、管理栄養士養成大学の勤務中に取得した栄養経営士を含め、管理栄養士だけが可能となる「3経営士ホルダー」を目指し、マネジメントに強い管理栄養士として成長していきたいです。

日本栄養経営実践協会 推薦図書



『国民の栄養白書2021年度版』 日本の食と栄養が創る新時代の健康

感染症への対応と持続可能な社会の実現を!

内容紹介

●巻頭インタビュー:中村丁次

日本における栄養活動の取り組みと成果 — ジャパンニュートリションの現在と未来 —

●第1部 日本人と食のチカラ

- 第1章 日本人の食の変遷から
- 第2章 日本人の身体に合った食事
- 第3章 感染症と食養生
- 第4章 緊急事・災害時における食事と栄養補給

●第2部 日本人を取り巻く食環境

- 第1章 食事環境における良好な換気とは
- 第2章 「安全な食」を提供するための取り組み
- 第3章 CO₂削減のための取り組み

●第3部 健康を導く食の取り組み

- 第1章 外食・中食・事業所給食で健康な食事を届けるスマートミール
- 第2章 地域で行う食の取り組み ①食で浜松を元気に!
- 第3章 地域で行う食の取り組み ②足立区における子どもたちへの食育と互助活動
- 第4章 企業が取り組む「健康を導く食」 大豆ミート(ソイパティ)を使った製品の導入

●4部 持続可能な社会の実現(SDGs)と次世代の食

- 第1章 新時代に推奨される食事とは何か
- 第2章 JICAが取り組む世界の栄養改善
- 第3章 ユーグレナ(ミドリムシ)の持つ可能性
- 第4章 食卓を支える肉・魚の新しいカタチ 陸上養殖
- 第5章 研究、開発が進む次世代のたんぱく質 ①昆虫食
- 第6章 研究、開発が進む次世代のたんぱく質 ②グラスカッター(食用齧歯類)

好評
発売中!

監修：中村丁次
(公益社団法人日本栄養士会
代表理事会長/公立大学法人
神奈川県立保健福祉大学 学長)
企画・制作：ヘルスケア総合政策研究所

定価：4,400円(本体価格4,000円+税)
会員価格：**3,520円**(税込) **2割引**
体裁：B5判/204ページ
ISBN：978-4-86729-081-1

栄養経営士が知っておきたい!

イベント 情報掲示板

栄養経営士に求められるのは、さまざまな情報へのアンテナを張り、自身の知識・スキルを常にアップデートしておくこと。そのための貴重な機会である、全国で開催されるイベント情報を、支部の研究会を中心に掲載します。

※新型コロナウイルス感染症対策で、イベントが中止になる場合があります。必ず最新情報を確認してください。

関東支部

石井先生と語ろう♪診療報酬改定カフェ —2022年度改定のポイント

2022年度診療報酬改定は、新興感染症への対応を含めた感染症対策をはじめ、働き方改革、入院や外来の再編、在宅医療の強化など、テーマが多岐にわたっています。診療報酬改定カフェでは、中医協等の議論を踏まえながら改定のポイントについて紹介します。

- 日 程：【第4回】2022年2月17日(木)17:30~18:30
【第5回】2022年3月17日(木)17:30~18:30
- 講 師：石井富美氏(多摩大学医療・介護ソリューション研究所副所長)
- 形 式：オンライン(Zoom)
- 参加費(税込)：【会員】1,000円/回 【一般】2,000円/回
- 主 催：日本栄養経営実践協会関東支部 / 日本医療経営実践協会
関東支部 / 日本介護福祉経営人材教育協会関東支部
- お問い合わせ：日本栄養経営実践協会
関東支部(担当:干場)
TEL:03-3553-2885



関西支部

栄養士のためのスキルアップセミナー2022 地域包括ケアにおける栄養士の役割と食支援 ～アフターコロナ・ウィズコロナ時代に求められること～

栄養士の「地域での役割」をテーマに、病院や介護事業所の管理栄養士・栄養士の方を対象にしたスキルアップセミナーを会場&リモートのハイブリッドで開催します。栄養士として地域で「何ができるのか」「何をすべきか」について、みんなで楽しく学びましょう!

- 日 程:2022年2月26日(土)13:30~16:30(受付開始13:00)
- 講 師:犬飼道雄氏(社会福祉法人恩賜財団済生会支部岡山県済生会岡山済生会総合病院 内科主任医長)
伊藤陽子氏(株式会社サエラ 管理薬剤師・サエラ薬局梅田東店 店長)
- 参加費(税込)：【会員】4,000円 【一般】5,000円
- 会 場:本町第2ビル 2階セミナールーム(大阪市中央区本町2-2-5)+オンライン(Zoom)
- 定 員:会場30人+リモート100人
- 後 援:日本栄養経営実践協会関西支部 / 日本医療経営実践協会関西支部 / 日本介護経営人材教育協会関西支部
- お問い合わせ:株式会社日本医療企画
関西支社(担当:喜津木(きつき))
TEL:06-7660-1761



協会事務局より

2022年4月期限の会員の皆様へ 【年度会費納入および資格更新のご案内】

本年4月に年度会費・会員資格の有効期限を迎える会員の皆さまに、当協会より、年度会費納入および資格更新のご案内を郵送しております。対象の方はご確認およびお手続きのほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

- 年度会費：有効期限が2021年4月20日~2022年4月19日の方
【個人正会員】10,000円
【栄養経営サポーター】8,000円
- 資格更新：会員資格が2019年4月20日~2021年4月19日の方
【個人正会員】15,000円(年度会費込み)
※申請書類・課題をご提出ください。
【栄養経営サポーター】13,000円(年度会費込み)
- お問い合わせ：一般社団法人日本栄養経営実践協会 事務局
TEL:03-3553-2903

九州支部

管理栄養士のための基礎医学講座 糖尿病&論文の読み方

今回のテーマは「糖尿病」と「論文の読み方」。最新の知見に基づいた糖尿病に関する正確な知識を学ぶと同時に、論文の読み方やデータの読み解き方についても学び、エビデンスを持った説明のできる管理栄養士を目指します。

- 日 程:2月19日(土) 10:30~16:30
- 講 師:三浦公志郎氏(九州女子大学家政学部栄養学科教授、医師)
- 参加費(税込)：【会員】7,000円 【一般】8,000円
- 会 場:第三博多偕成ビル503(福岡市博多区博多駅南1-3-6)
+オンライン(Zoom)
- 定 員:40人(会場は6人)※グループワークあり
- 主 催:株式会社日本医療企画九州支社
- 後 援:日本栄養経営実践協会九州支部
- お問い合わせ:株式会社日本医療企画九州支社(担当:中野)
TEL:092-418-2828



2021年度「栄養経営士」資格認定試験はIBT方式で実施中です!

「栄養経営士」 資格認定試験

- 試験日:2021年3月22日~ ※毎日受験可能
- 受験料:9,500円(消費税・システム利用料込み)
- 実施方法:IBT(Internet-Based Testing)方式
※インターネットを経由しスマートフォン、タブレット端末、パソコンを使用して受験
- 受験エントリー期間:2021年3月1日~(通年)
- 受験資格:管理栄養士(実務経験2年以上)かつ「栄養経営士」資格認定基礎講習修了者

「栄養経営士」資格認定基礎講習は
WEB・DVDによる受講も可能です!

DVD受講は3枚組、特典映像
「近森病院に学ぶ実践マネジ
メントのすべて」付き

くわしくは

🔍 栄養経営士

検索



一般社団法人 日本栄養経営実践協会
The Japan Association for Nutritional Management Practice

〒101-0042 東京都中央区八丁堀3-20-5 S-Gate八丁堀9F
TEL:03-3553-2903 FAX:03-3553-2904